

令和8年度
事業計画書



社会福祉法人 神奈川やすらぎ会

【 目 次 】

令和8年度 運営方針	・ ・ ・ ・ ・	2
セクション（拠点順）		
高齢者総合福祉サービスセンター森の里		
特別養護老人ホーム 森の里	・ ・ ・ ・ ・	3
通所介護・通常規模型 森の里	・ ・ ・ ・ ・	4
管理・営繕 部門	・ ・ ・ ・ ・	5
居宅介護支援 森の里	・ ・ ・ ・ ・	6
第二森の里		
特別養護老人ホーム 第二森の里	・ ・ ・ ・ ・	7, 8
厨房 部門	・ ・ ・ ・ ・	9, 10
総務 部門	・ ・ ・ ・ ・	11, 12
小鮎・緑ヶ丘地域包括支援センター	・ ・ ・ ・ ・	13, 14
みらくる保育園	・ ・ ・ ・ ・	15, 16
委員会		
人権擁護委員会（森の里）	・ ・ ・ ・ ・	17
防災委員会（森の里）	・ ・ ・ ・ ・	18
衛生対策委員会（森の里）	・ ・ ・ ・ ・	19
身体的拘束等適正化検討委員会（第二森の里）	・ ・ ・ ・ ・	20
虐待防止検討委員会（第二森の里）	・ ・ ・ ・ ・	21
事故防止検討委員会（第二森の里）	・ ・ ・ ・ ・	22
防災委員会（第二森の里）	・ ・ ・ ・ ・	23
衛生対策委員会（第二森の里）	・ ・ ・ ・ ・	24
褥瘡対策委員会（第二森の里）	・ ・ ・ ・ ・	25
生産性向上推進委員会（第二森の里）	・ ・ ・ ・ ・	26
研修委員会（特養・通所・居宅・地域包括合同）	・ ・ ・ ・ ・	27, 28
組 織 図		

テーマ：「気づき・感じる」

～気づきを行動につなげ、変化に対応できる強い組織へ～

1. 昨年度からの継続

当法人は、令和5年度「あるべき姿の追求」、令和6年度「考動」、令和7年度「気づき・感じる」とテーマを重ねてきました。この3年間の流れは、いずれも「気づくこと」から始まり、考え、行動し、改善していくというPDCAサイクルを組織として実践していくための土台です。令和8年度も引き続き「気づき・感じる」をテーマとし、昨年度以上に“気づきを行動に変える力”を組織として高めていきましょう。

2. 気づきの質を高める

介護・保育の現場には正解がありません。だからこそ、利用者・子ども・家族の変化、職場の変化、社会環境の変化に気づける視点を磨くことが最も重要となります。

- ・表情、生活リズム、言葉のニュアンス、動作の変化を捉える
- ・小さな違和感を記録しチームで共有
- ・感覚任せにせず、客観的に整理して次の行動につなげる

この積み重ねがより良い支援に直結します。

3. PDCAの定着

PDCAを回す前提は、現状に“気づいていること”です。令和8年度は、気づく（感性）・考える（分析・仮説）・動く（対応・改善）・振り返る（検証・反省）の循環を個人・チーム・法人レベルで定着させます。

変化への対応を止めた瞬間に組織は衰退します。昨年度の運営方針にも記載しましたが、昨日と同じ動きを繰り返しても違う明日にはならない、その思考を組織文化として根付かせる1年とします。

4. 人間力の強化

利用者・子どもに寄り添う力は、職員一人ひとりの人間力に支えられています。人間力向上には個々の人生が豊かである必要があります。令和8年度も引き続き、福利厚生の実施・研修機会の確保・公休・有休取得100%・残業ゼロ運営を継続し、その時間を読書、学び、趣味、副業、家族の時間に活用し、自己成長につなげることを推奨します。

5. チーム・コミュニケーション

より良い支援には「自分の考えを話す」「他者の考えを聞く」という相互尊重が不可欠です。そのために・日常的な対話・相互信頼の構築・価値観の違いを受け止める姿勢を職場づくりの基本とし、個人ではなく“チームとして成果を出す組織”を目指します。

6. 求められ続ける組織へ

社会から必要とされる組織には「存在意義」が必要です。そのためには外部環境や内部環境の変化を感じ取るアンテナ・試し続ける考動・改善を積み重ねる姿勢を持ち続けることが欠かせません。環境の変化に対応し続けられる“強い組織”の構築を目指していきます。

1、年度目標

- ①利用者一人ひとりの希望に寄り添った介護を実践する。その人それぞれの生活課題や心身状態を的確に把握し QOL の維持、向上を図る。
- ②内部研修の実施および外部研修への参加により得た学びを職員全体で共有し、専門知識および介護技術の向上を図る。

2、概要

- ・毎日のミーティング冒頭において、利用者の様子や気づきを共有し、個別性を重視した支援の実践につなげる。
- ・外部研修受講者による報告・発表の機会を設け、基礎知識の再確認および技術向上を図るとともに、学習方法および確認体制を整備する。

【相談員】

- ・ご利用者がある人らしい生活を継続できるよう支援する。ご利用者の自立支援を基本とし、ご利用者およびご家族の希望・要望に対して適切に相談対応を行う。また関係職員と連携し、より質の高いサービスの提供に努める。

【医 務】

- ・ご利用者の思いを尊重し、現在の ADL の維持・向上を日常生活の中から支援する方法を実践し、満足度の高い生活環境の提供に努める。
- ・多職種と協働し、看護および介護ケアの質の向上に努める。
- ・嘱託医と連携し、施設内における感染症予防および感染拡大防止に関する情報発信・研修を実施し、職員が理解し実践できる体制を整備するとともに、衛生環境の維持向上に努める。
- ・褥瘡予防に継続的に取り組み、ケアの質の向上を図る。

【介護支援専門員】

- ・ご利用者およびご家族の意向を踏まえ、モニタリングやサービス担当者会議等で得られた専門的視点からの気づきをケアプランに反映させる。多職種と連携し、自立支援に向けた取り組みを計画的に実践する。

【短期入所】

- ・日常の関わりの中で得られる小さな変化や気づきを記録・共有し、支援の改善につなげる。
- ・サービス提供内容を定期的に評価・見直し、支援の質の継続的向上を図る。
- ・安定した利用者の確保に向け、居宅介護支援事業所との連携を強化し、新規利用者の確保に努める。

3、年間行事計画

4 月	お花見	9 月	敬老祭ふれあい祭り
1 月	元旦祝膳	2 月	節分

1、年度目標

在宅生活支援に結び付くサービスを提供するとともに、多様に変化していく介護ニーズに柔軟に対応できるよう IT や IoT を活用しながらサービスの質の向上を図る。
また、新規利用者獲得に努め、稼働率 100%を目指す。

2、概要

- ① 個別機能訓練、レクリエーション、季節行事等の活動内容の充実を図り、個々の QOL 向上につながるサービス提供を実践する。
- ② IT や IoT を活用した業務改善を推進し、効率化と質の向上を両立させる。
- ③ ご家族および介護支援専門員との連携を強化し、ニーズを的確に把握した上でサービス内容の見直しと充実を図り、支援の質を高める。
- ④ 地域包括支援センターおよび居宅介護支援事業所への定期的な訪問を実施し、情報共有と関係強化を図ることで新規契約につなげる。
- ⑤ 外部との交流以外にも SNS を活用し、情報発信を積極的に行い、新規契約につながるよう努める。
- ⑥ 感染予防を徹底し、ご利用者が楽しみを持ち安心して安全に過ごせるよう努める。

3、年間行事計画

4 月	お花見	10 月	運動会
5 月	こいのぼり作品作り	11 月	おやつ作り
6 月	おやつ作り	12 月	クリスマス会
7 月	七夕飾り作り	1 月	新年会
8 月	夏祭り	2 月	節分
9 月	敬老会	3 月	ひなまつり・おやつ作り

4、研修計画

研修委員会の計画に基づき施設内研修を実施する。
機能訓練、レクリエーション、認知症ケア等に関する外部研修へ積極的に参加し、知識及び技術の向上を図る。

5、その他

毎月のカレンダー制作
書道クラブの実施
個別によるお誕生会の開催

1、年度目標

コロナ禍を経て人員体制が変化する中、これまでの業務内容を改めて整理し、年間を通して全職員が業務を把握・共有する体制を構築する。また従来実施できなかった業務の再開や新たな取り組みを検討し、学びを深めながら着実に実行する。

2、概要

【車両管理と運用・送迎部門】

- ① 車両の定期的な整備・点検・清掃を徹底し、安全運転を励行することで事故ゼロを目指し、快適で安心できる送迎を実施する。
- ② ご利用者およびご家族からのご意見・ご要望について情報共有を徹底し、サービス向上に活かす。
- ③ 新規ご利用者の自宅周辺環境を事前に確認し、安全かつ効率的な送迎計画を立案する。
- ④ ご利用者およびご家族への言葉遣い・挨拶・態度に配慮し、明るく丁寧な対応を心掛ける。
- ⑤ 車椅子固定装置の使用方法を再確認し、職員間で手順を統一することで安全確保を徹底する。
- ⑥ 出勤時および退勤時のアルコールチェックを確実に実施し、法令遵守を徹底する。

【設備・営繕部門】

- ① 森の里・第二森の里・みらくる保育園・グリーンヒルズの環境整備および建物の定期メンテナンスを計画的に実施する。
- ② 備品および車椅子等の器具について定期点検・整備を実施し、安全性を維持する。
- ③ 建物および設備のメンテナンス方法や専門知識について、職員間で共有・継承を行う。
- ④ 老朽化箇所や破損個所の早期発見に努め、必要に応じて修繕・改修を実施する。

3、研修計画

- ・オンライン研修が主流となる中、視聴環境の確保が困難な職員にも配慮し、集合視聴や時間調整等の工夫を行い、必要な研修に参加できる体制を整備する。

1、年度目標

医療や介護を必要とする高齢者や障害者が、住み慣れた地域で自分らしく、生き生きと暮らしていける仕組み「地域包括ケアシステム」の一員として、多様なニーズに対応できるよう、地域における医療、行政、介護の関係機関と連携していく。

2、概要

- ① 在宅での生活を支える為、ご利用者の入退院における医療と介護の連携や必要に応じて他機関等と連携し生活全体のマネジメントを行い、思いに気づき・感じ、寄り添う支援を行う。
- ② 特定事業所としての要件を各々が理解し、中重度や支援困難ケースは積極的に対応し質の高いケアマネジメントが行えるように努める。また、他居宅介護支援事業所との事例検討を行うなど、地域のケアマネジメント機能を向上させる取り組みを行う。
- ③ 各種研修会等に参加して知識や技術のスキルアップを図り、ケアプランが効果的に機能できるようにする。研修や会議にも積極的に参加して、事業所内でも情報共有や支援に関する相談を行い、資質向上に努める。

3、年間行事計画

- ・年5回 事例検討会、他居宅事業所との共同事例検討会
- ・年1回（9月）新規ご利用者へアンケート
- ・週1回ケース会議 月1回ケアマネ会議 朝のミーティング

4、研修計画

- ・施設内研修（事故防止・ヒヤリハット、ターミナル、人権擁護、食中毒、感染症）
- ・ケアマネ部会研修 ・厚木医療福祉連絡会 ・厚愛地区高齢協研修
- ・保健福祉事務所研修 ・県社会福祉協議会研修 ・県介護支援専門員協会研

1、年度目標

- ・法人運営方針「気づき・感じる ～気づきを行動につなげ、変化に対応できる強い組織へ～」を基本理念とし、利用者一人ひとりの尊厳を守り、安全で安心な生活環境の提供を推進する。
- ・介護・看護・相談・栄養・事務等の多職種が連携し、日常業務の中で生じる小さな変化や違和感に気づき、記録・共有・検証を通じて PDCA サイクルを定着させることで、質の高い介護サービスの継続的な向上を図る。

2、概要

【1階フロア】

- ・課題を設定し、職員間で意見交換を行いながら計画的に取り組み、評価・改善を重ねることで、PDCA サイクルの定着を図る。
- ・ご利用者一人ひとりに添ったケアを実践するため、日常的なコミュニケーションを重視し、不安や思いに気づける職員の育成を図る。
- ・感染対策を徹底するとともに、職員自身の健康管理を徹底する。

【2階フロア】

- ・職員一人ひとりが高齢者に対する礼節と接遇を重んじ、誠実な対応を徹底する。
- ・ご利用者の生活の場をより豊かで安心できる環境とするため、毎月のレクリエーションを計画的に実施する。また個々の生活の充実を図るため、ご家族や多職種と連携し支援を行う。
- ・事故発生時には速やかに再発防止策を検討し、共有・徹底を図ることで事故件数の減少に努める。

【3階フロア】

- ・ご利用者の変化に迅速に気づき、多職種と連携して課題解決を図る。
- ・安心してその人らしい暮らしが継続できるよう、ケアの統一を図る。
- ・自立支援の視点を重視し、ADL の維持・向上を推進する。

【相談員】

- ・入院時、医療機関と定期的に情報共有を行い、ご家族、関係職員と連携しながら円滑な退院・退所支援を行う。
- ・ご利用者およびご家族の相談窓口として迅速かつ適切に対応し、不安や負担の軽減を図る。

【介護支援専門員】

- ・「その方らしい生活の実現」および「残存機能の維持・向上」に配慮したケアプランを作成し、質の向上を図る。

- ・多職種との情報共有を通じて、日々の小さな変化や違和感を把握し、ご利用者が安心して生活できるケアマネジメントを実践する。

【医 務】

- ・ご利用者およびご家族の意志を尊重し、納得のいく最期を迎えられるよう多職種で思いを共有し、看取りケアを実践する。
- ・他部門と連携し、各種リスク管理を徹底するとともに、安心して生活できる環境を整備する。
- ・感染対策に関する知識の向上を図り、病原体を持ち込まない・持ち出さない・拡大させない体制を維持する。
- ・尿路感染症等、高齢者特有の感染症の予防および早期対応に努める。

【短期入所】

- ・日常の関わりの中で得られる小さな変化や気づきを記録・共有し、支援の改善につなげる。
- ・サービス提供内容を定期的に評価・見直し、支援の質の継続的向上を図る。
- ・安定した利用者確保に向け、居宅介護支援事業所との連携を強化し、新規利用者の確保に努める。

【洗濯・清掃】

- ・ご利用者の衣類およびリネン類を常に清潔かつ衛生的に管理し、感染予防および快適な生活環境の維持に努める。
- ・施設内の清掃および環境整備を適切に実施し、衛生的で快適な生活環境を維持する。

3、年間行事計画

4 月	お花見	1 0 月	運動会
5 月		1 1 月	秋の実りまつり
6 月		1 2 月	クリスマス会／忘年会
7 月	七夕	1 月	元旦祝膳
8 月	夏まつり	2 月	節分
9 月	敬老祭ふれあい祭り	3 月	雛まつり・お花見

※随時：ご利用者誕生祝/みらくる保育園との交流/デイサービスとの交流/外出支援

4、研修計画

- ・内部研修：研修委員会計画に基づき実施
- ・外部研修：随時参加

5、その他

- ・実習生受入れ：随時 （5月～10月 厚木看護専門学校64名受入れ予定）

1、年度目標

- ・行事食および食事レクリエーションを通して食事の楽しさを提供する。
- ・衛生管理対策を強化し、安全で安心な食事提供を徹底する。
- ・職員間の情報共有を図り、協力体制のもと主体的に業務を遂行する。

2、概要

【調理部門】

- ・旬の食材を活用し「美味しい」「また食べたい」と感じられる食事の提供を行う。
- ・行事食および食事レクリエーションに積極的に参画し、見た目・味・季節感に配慮した変化のある献立を提供する。
- ・衛生管理を徹底し、食中毒の発生予防に努める。
- ・トロミ濃度や食材の硬さを標準化するため、試作および検証を行い、厨房内で情報共有を図る。

【栄養管理部門】

- ・摂食機能の維持に配慮しながら、安全かつ個別性に応じた食事提供を行うため、「大きさ」ではなく「軟らかさ」を基準とした食事形態の開発および運用を推進する。
- ・「自ら食べる」ことを尊厳保持の重要な要素と位置づけ、食席環境・食器（自助食器を含む）・食具の調整に取り組み、適切な支援を行う。
- ・週1回以上の管理栄養士カンファレンスを実施し、担当施設・フロアを超えた計画立案および情報共有を行い、栄養管理の質の向上を図る。

【保育園】

- ・地産地消を推進し、JAを通じて米や野菜を仕入れることで、園児が生産者との関わりを持ち、地域食材を通じた食育を実践する。
- ・リクエストメニューの実施回数を増やし、満足度向上を図る。
- ・厨房職員は食事レクリエーションに参加し園児および保育士との交流を深める。
- ・保育園の食事会議に出席し、保育士と連携の上情報共有を行い、献立に反映させる。
- ・食育活動を通じ、小学校進学後および将来的な社会生活においても活かせる基礎的な生活能力の育成を支援する。

3、年間行事計画

4月	お花見	10月	食育活動（保育園）
5月	食育活動（保育園）	11月	収穫祭秋の実りまつり
6月		12月	クリスマス会、年越し
7月	七夕	1月	元旦祝膳
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老祭ふれあい祭り リクエスト献立（保育園）	3月	ひなまつり リクエスト献立（保育園）

※上記他、誕生日食（特養）・遠足弁当（保育園希望者）等

4、研修計画

- ・嚥下食および栄養管理に関する研修
- ・食中毒および感染症対策研修
- ・厚木市給食従事者講習会への参加

1、年度目標

法人内外の状況を迅速かつ的確に分析し、適正な財務管理および労務管理を行う。
法人と外部をつなぐ窓口としての役割を再認識し、責任と自覚をもって業務を遂行する。
既存の様式および手続きを見直し、業務の効率化および適正化を推進する。

2、概要

【総務事務全般】

- (1) 適正な会計処理を行い、月次ごとに収支状況を正確に把握する。
- (2) 光熱水費の推移を把握し、数値の可視化を行うとともに法人全体に対して省エネルギーの推進を働きかける。
- (3) 資格取得支援および子育て支援等を通じ、職員が働きやすい環境の整備を図る。
- (4) 書類の電子化を推進し、ペーパーレス化による業務効率化を図る。
- (5) 優秀な外国人人材採用に向けて情報収集を行い、外国人職員が安心して勤務できる環境を整備する。

【森の里総務事務全般】

- (1) 法人総務とコミュニケーションを強化し、職員が円滑に業務を遂行できる環境を整備する。
 - ① 備品の在庫管理の徹底および適切な発注業務の実施
 - ② 小口現金の適正管理
 - ③ 正確な勤怠管理
- (2) ご利用者のよりよい生活環境づくりを支援する。
書道クラブおよび華道クラブ等で使用する備品の在庫確認および補充

【請求事務全般】

- (1) 介護給付費およびご利用者への請求を適切に行う。
- (2) 請求内容を細部まで確認し、誤請求の防止を徹底する。
- (3) 返戻等が発生した場合には原因を精査し、速やかに適切な対応を行う。
- (4) 請求完了後は、会計ソフトへの入力および計算処理を正確に行う。

【備品購入管理】

- (1) 各セクションとの連携を強化し、適正な備品管理を行う。
- (2) 発注業務および在庫管理業務のシステム化ならびにペーパーレス化を推進する。
- (3) 感染症予防対策を支援し、必要備品の確認および補充等を確実に行う。

【助成金担当】

- (1) 令和8年度神奈川県キャリアアップ助成金の支給申請を適切に行う。
- (2) 令和8年度厚木市介護職員等人材育成支援事業補助金の申請を適切に行う。
- (3) 令和8年度成建福祉財団(高齢者福祉施設整備事業)助成金の申請を適切に行う。
- (4) 令和8年度丸紅基金補助金の申請を適切に行う。
- (5) 令和8年度神奈川県看取り環境整備補助金の申請を適切に行う。
- (6) 補助金、助成金に関する情報を収集し、各セクションと共有する。
- (7) 各種表彰対象者の選定を適切に行う。
- (8) 業務継続計画(BCP)の整備を行い、研修および訓練を策定し実施する。
- (9) 生ごみ処理機(ゴミサー)の使用状況を調査し厚木市への実績報告を適切に行う。

【人財育成担当】

- (1) 資格取得を希望する職員へ情報提供および研修機会を提供し、職員のスキルアップを支援する。
- (2) データに基づく業務分析を行い、各セクションの主任および担当者と連携して課題解決を図る。
- (3) ホームページおよびSNSを活用し求人業務を適切に行う。
- (4) 学生ボランティアおよび実習生等を積極的に受け入れるとともに、介護や法人の魅力を発信する。

【入退所（居）事務局】

- (1) 入所（居）希望者数を正確に把握する。
- (2) 各種待機者調査報告書を迅速かつ正確に作成、提出する。

3、年間行事計画

4月	決算資料作成
6月	理事会〔予算・事業報告〕、定時評議員会、職員健康診断(2日間)
1月	職員健康診断（夜勤者）、法定調書・給与支払報告書作成・提出
2月	次年度予算資料作成
3月	理事会〔決算・事業計画〕

1、年度目標

高齢者だけでなく、障がい者や子どもも含めた全ての住民を対象とし、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムにおける地域の中核機関として、地域全体で支える体制を構築し、生活上の困りごとを総合的に支援するよう努めていく。

2、概要

- ① 日常的な関わりや相談対応の中で得た小さな変化・兆候・気づきを見逃さず、専門的な視点におけるアセスメントや情報の共有を行い、早期・予防的に支援へつなげる実践を目指す。
- ② 支援を必要とする高齢者等を見だし、保険・医療・福祉サービスをはじめとする適切な支援へのつなぎ、継続的な見守りを行い、更なる問題の発生を防止するため、介護サービス事業者、医療機関、民生委員、ボランティア等、地域における様々な関係者のネットワークの構築を図る。
- ③ 複合化、複雑化した問題を抱える個人や世帯（ひとり暮らし・認知症・老老介護・ダブルケア等）に対する適切な支援を行い、対応にも配慮していく。
- ④ 個別相談を受ける体制の確保、自立支援型地域ケア会議への参加、各種研修に積極的に参加し、職員の資質向上を図る。

3、年間行事計画

4月	みな来るラジオ体操、包括便り春号発行
5月	どんぐり庵推進会議、みな来るラジオ体操
6月	緑いきいきサロン、ケアマネ交流会、みな来るラジオ体操
7月	みな来るラジオ体操、包括便り夏号発行、レコードブック厚木林運営推進会議キャンタス運営推進会議
8月	みな来るラジオ体操
9月	緑いきいき交流会、オレンジフェスタ どんぐり庵推進会議、みな来るラジオ体操
10月	緑ヶ丘敬老事業、小鮎お楽しみ会、みな来るラジオ体操、包括便り秋号発行、なごみ白山運営推進会議
11月	緑いきいきサロン、緑ヶ丘公民館祭り、みな来るラジオ体操、緑ヶ丘小学校2年生包括見学
12月	みな来るラジオ体操、レコードブック厚木林運営推進会議
1月	緑いきいき交流会、みな来るラジオ体操、包括便り冬号発行

2月	緑いきいきサロン、ケアマネ交流会、キャンタス運営推進会議 みな来るラジオ体操
3月	緑いきいき交流会、どんぐり庵推進会議なごみ白山運営推進会議 小鮎公民館祭り、みな来るラジオ体操

- ※・第1・3木：第二森の里体操教室 ・奇数月第3火：相談会（クリエイト簗谷店）
みな来るラジオ体操 みな来るカフェ（随時）
- ・第2水：緑ヶ丘民児協定例会 第2木：小鮎民児協定例会 ・認知症キャラバン講座
第1第2層協議体 各地域ミニデイ（随時）・自立支援型地域ケア会議（随時）

4、研修計画

地域包括担当者会議 市・県地域包括従事者研修

5、所属委員会

厚木市第1層協議体委員・・・岩崎 浩介
厚木市第2層協議体委員・・・近澤 嘉子 成田 裕世
むつみ会役員・・・・・・・・・・中原 亜矢
厚木市認知症地域支援推進員・成田 裕世
法人研修委員・・・・・・・・・・神名 貴子
厚木市高齢者支援検討会議・・・岩崎 浩介
緑ヶ丘地区地域福祉推進委員・岩崎 浩介
小鮎地区地域福祉推進委員・・・岩崎 浩介

1、年度目標

- ① 保育士を志す人を増やすために職員が一丸となって、若い人材を育成する力を付ける。それと共に現在の職員の定着を確実なものにし、園児入所率を100%にする。
- ② 子ども主体の保育とは何かを職員全体で考え、子どもに寄り添った保育を展開し、それを保護者に伝えていく努力をする。
- ③ 全園児の子どもたちの遊びや支援する方法などの情報共有を密にしていく。

2、概要

- ① 積極的に職場体験やサマースクールなどを開催して市内の小・中・高・大学生に保育の良さを知らせる。それを全職員が積極的に関わりを持ち、育成する事の大切さと自分が伝える側になる事で自分の保育観を見つめ直す機会になるようにする。
- ② 子どもの発見した姿や夢中になっている事に気付くアンテナを持ち合わせるような感性を磨き、それを写真やドキュメンテーション、クラスだよりなどを使って保護者に伝えられる技術を磨く。また、職員同士のコミュニケーション力を高め、自分のクラスだけでなく他クラスの子どもの姿にも目を向け、共有し合えるチーム保育を実践する職員集団へと成長する。
- ③ ケース会議を通して、全職員が全員児を見守る態勢づくりを徹底し、一人ひとりの子どもに合った支援が出来る様に共通理解をして保育をする。

3、年間行事計画

4 月	・ 始まりの会 ・ 春の遠足(4. 5 歳児) ・ 入園おめでとう会 ・ 内科健診	10 月	・ 内科健診 ・ 不審者訓練 ・ 運動会 ・ はじめての遠足(3 歳児) ・ 秋の遠足
5 月	・ 子どもの日集会 ・ 懇談会(年間目標説明会) ・ 歯科検診 ・ 親睦遠足(4. 5 歳児)	11 月	・ 歯科検診 ・ 保育参観(0. 1. 2 歳児)
7 月	・ 七夕まつり集会 ・ プール始め ・ 小鮎中職場体験	1 月	・ 不審者訓練 ・ 交通安全教室(全園児) ・ 伝承遊び week
8 月	・ 高校生サマースクール	2 月	・ 豆まき集会

	・湘北との連携職場体験 ・夏のおたのしみ会 ・保育実習生受入れ ・プール納め		・体幹運動発表会 ・交通安全教室(5歳児)
9月	・引き渡し訓練 ・水害訓練 ・看護学生受入れ	3月	・ひな祭り集会 ・なかよし week ・お別れ遠足(3.4.5歳児) ・お別れ会 ・卒園式

*誕生会…誕生日に各クラスでお祝いをする。

*地元野菜の納品…週2日位

*個人面談…個々に合わせて適正な時期に全保護者と年間最低1回行う。

*毎月実施…身体測定、避難訓練(地震か火災)

*年3回…不審者訓練

*年2回…水害訓練

*トウモロコシとさつま芋の栽培体験(地域の農家との交流)

*森の里、第二森の里との交流は随時連絡を取り合って行う。

*デイサービスみどりとの交流も年2回予定

*小鮎保育所、コスモス、クレヨン保育室など他園との交流は随時連絡を取り合って行う。

4、研修計画

- ・アレルギー、誤飲、誤嚥
- ・子どもの発達講座
- ・怪我、感染症予防
- ・保健講座(乳児)
- ・そのほか厚木市保育会・民間保育会・社協主催の研修
- ・キャリアアップ(およそ3年以上経験の職員)
- ・人権擁護
- ・体幹運動
- ・主体的な保育について
- ・応急処置、救急救命

構成員

西迫哲、小林秀也、山崎晴香、仲亀和子、阪口百恵、三橋亮太、門倉千絵、橋本啓太
前野雄也、栗澤恵美、佐藤健一、上東輝久

1、目標

医務および研修委員会と連携し、職員の専門性向上を図る機会を創出する。

その取り組みを通じ、ご利用者および職員がともに安心・安全に過ごすことができる環境の整備を推進する。

2、活動計画

- 1、ブルーオーシャンのヒヤリハットおよび事故報告記入欄等の機能を最大限に活用し、事故防止ならびに介助・環境面の安全性向上に向けた取り組みを主導する。
- 2、毎月の事故データを分析し、結果を職員全体へ共有することで再発防止策の徹底を図る。
- 3、医務および研修委員会と連携し、各セクション間で情報および専門知識の共有を行う。
- 4、身体拘束、高齢者虐待防止、事故防止に関する研修を企画、実施する。

構成員

鈴木裕一、南敬子、高橋多津子、高橋亜由美、橋本啓太 田島亜希子

1、年度目標

- ・ご利用者の安全を最優先とし、災害発生時に迅速かつ適切に行動できる体制の構築と職員の防災意識向上を図る。
- ・ご利用者の生命と生活を守るため、備蓄・設備・連絡体制の点検を徹底し、職員一人ひとりが主体的に行動できる防災体制を確立する。
- ・災害および火災に備え、ご利用者および職員の人命安全確保と被害軽減を目的とした避難訓練を実施する。

2、概要

- ・防災用具および建物内外の定期点検を実施し、安全性の確保および設備機能の維持を図るとともに、危険箇所の把握と改善に努める。
- ・災害発生時の役割分担を明確化し防災マニュアルの定期的な見直しおよび更新を行う。
- ・被害を最小限に抑えるため、ボイラー停止方法および施設内防災設備の操作方法を周知徹底する。
- ・火災避難訓練は、二方向避難を実施し、実践的な避難行動を習得する。
- ・自然災害 BCP 訓練として、緊急連絡網に基づく安否確認および出勤可能職員の把握訓練を実施する。
- ・大規模避難訓練では、実災害を想定し、実施日時を限定しない告知方法(例：「今週中」等)により実践的訓練を行う。
- ・垂直避難を想定し、車椅子利用者の階段移動訓練を行う。

3、訓練計画

土砂災害避難訓練、夜間想定火災避難訓練、消火訓練、大規模地震想定避難訓練
防災センターへの新任研修

4、その他点検・活動

- ・防災設備点検（毎月）
- ・施設内安全確認パトロール（年4回）
- ・備蓄倉庫物品点検・整理交換（3ヶ月毎）
- ・各セクション防災頭巾の虫干し
- ・救急セット点検
- ・年度初頭時点での職員の緊急連絡網の配布(年1回)
- ・人員変更時の緊急連絡網更新
- ・懐中電灯点検（毎月）

衛生対策委員会(森の里)

構成員

西迫哲、小林秀也、門倉千絵、山崎晴香、前野雄也、阪口百恵、仲亀和子、橋本啓太
栗澤恵美、澤田由里子、松本純子

1、年間目標

- ・感染症予防および衛生管理の徹底を図り、ご利用者および職員の安全の確保をする。
- ・感染症発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整備し、施設内感染拡大防止を徹底する。

2、年間概要

- ・3ヵ月に1回以上定例会議を開催し、その結果について職員へ周知徹底する。
- ・定期的に感染症対策研修を企画、実施する。
- ・感染症発生時には、業務継続計画（BCP）に基づく実務訓練を実施する。
- ・新任職員に対する感染症対策研修を実施する。
- ・標準予防策の徹底を図る。
- ・施設内環境の定期点検を実施する。
- ・関係機関から感染症に関する通達があった場合は、速やかに緊急会議を開催する。

3、年間計画

4月	施設内環境整備 感染対策に必要な備蓄品の確認
7月	感染症マニュアル見直し 夏季感染症対策
10月	ノロウイルス・インフルエンザ予防対策 施設内環境整備
1月	衛生面・消毒方法の徹底

身体拘束等適正化検討委員会（第二森の里）

構成員

西迫初美、千葉京子、鈴木裕、塩川匠、芦田美幸、丹羽涼、古屋明子、川越直美
大瀧亜希奈、横山恵美、白澤亮、増井ももこ、森川了佳

目 的

利用者の尊厳と人権を守るため、身体拘束に依存しないケアの推進および未然防止に努めるとともに、職員教育および委員会活動を通じて身体拘束適正化体制の強化を図る。

重点目標

- ・身体拘束に依存しないケアの実践を推進し、身体拘束の未然防止に努める
- ・身体拘束適正化に関する知識の向上を図るため、職員への教育および研修を充実させる
- ・指針および関連マニュアルの遵守と継続的な見直しにより、適正な運営体制を確立する

年度計画

- ・委員会を年4回以上開催（開催月 4月、7月、10月、1月）※必要に応じて随時開催
- ・身体拘束に関する事例および未然防止事例の検討を行う。
- ・身体拘束に関する指針およびマニュアルの点検・見直しを行う。
- ・やむを得ず身体拘束を行う場合の判断基準、手続き、記録方法の確認を徹底する。
- ・身体拘束防止および高齢者虐待防止に関する職員研修を年2回以上実施する。
新任職員採用時には身体拘束等の適正化と人権尊重ケア研修を行う。
- ・ご家族への説明および同意手続きについて適切に対応する。

評価方法

- ・身体拘束実施件数の把握
- ・委員会議事録および研修実施記録の確認

虐待防止検討委員会（第二森の里）

構成員

西迫初美、千葉京子、鈴木裕、塩川匠、芦田美幸、丹羽涼、古屋明子、川越直美
大瀧亜希奈、横山恵美、白澤亮、増井ももこ、森川了佳

目 的

利用者の尊厳の保持および権利擁護を徹底し、虐待の未然防止・早期発見・迅速対応を図るとともに、職員の倫理観向上および安心して働ける職場環境の構築を推進する。

重点目標

- ・不適切ケアの未然防止体制の強化
- ・研修参加率１００％の達成
- ・セルフチェック回収率１００％
- ・相談・通報体制の周知徹底

年度計画

- ・委員会を年４回以上開催（開催月　４月、７月、１０月、１月）必要に応じて臨時開催
- ・虐待防止指針の見直しを年１回以上行う。
- ・職員研修を年２回以上実施する。新任職員採用時には虐待防止のための研修を行う。
- ・セルフチェックの実施。結果分析および改善策検討。
- ・相談・通報体制の整備を行う。内部窓口の明示、対応フローの明文化を行う。
- ・他委員会（身体拘束等適正化委員会、事故防止委員会、生産性向上委員会、研修委員会）と連携する。

評価方法

- ・研修実施状況と参加率の確認
- ・セルフチェック結果分析
- ・委員会議事録および研修実施記録の確認

事故防止検討委員会（第二森の里）
（旧人権擁護委員会）

構成員

西迫初美、加藤沙亜耶、東海林美夏、赤間由梨、古屋明子、丹羽涼、増田裕美、増井ももこ
森川了佳

目 的

施設内における事故の未然防止および再発防止を徹底し、利用者の安全確保と安心できる生活環境の維持を図る。

重点目標

- ・ 重大事故ゼロの継続
- ・ ヒヤリハット報告件数の増加（報告しやすい環境づくり）
- ・ 事故原因分析の質向上
- ・ 家族説明体制の徹底

年度計画

- ・ 委員会を毎月開催 ※必要に応じ随時開催
- ・ 事故発生状況の把握
事故件数を集計、事故種別ごとの分析（転倒・誤薬・誤嚥等）、時間帯・場所別分析
- ・ ヒヤリハットの活用
ヒヤリハット報告の促進、重大事故への発展予防分析、報告しやすい環境整備
- ・ 再発防止策の検討
事例検討会の実施、個別ケア計画への反映、環境整備の見直し
- ・ 職員研修
年1回以上実施（事故発生要因の理解、リスクマネジメント、危険予知トレーニング）
- ・ 他委員会との連携
身体拘束等適正化委員会、虐待防止検討委員会、衛生対策委員会、生産性向上委員会と連携し、総合的なリスク管理体制を構築する。

評価方法

- ・ 事故発生件数の推移分析
- ・ 重大事故発生の有無
- ・ ヒヤリハット報告件数
- ・ 再発事例の有無
- ・ 家族説明・報告記録の確認

防災委員会（第二森の里）

構成員

西迫哲（防火管理責任者）、星野晃徳、永田英夫、會田哲平、伏見祐子

目 的

職員の、火災・震災等の災害に対する危機意識を高めるとともに、災害に起因する人的・物的被害を最小限にとどめることを目的とする。

年度計画

- ① 法令に定められた訓練の実施
 - ・大規模地震対策特別措置法に基づく訓練(年1回、計画・実施)
 - ・火災想定訓練(年1回、計画・実施)
 - ・消火器使用消火訓練(年2回、実施)
 - ・風水災害訓練（年1回、実施）
- ② 施設の防災計画の見直し
 - ・防災計画の作成
- ③ 水害想定訓練
 - ・水害対策マニュアルの作成
 - ・避難訓練の実施(年1回、実施)
- ④ その他
 - ・備蓄物品の整理交換
 - ・神奈川県総合防災センター訪問訓練：年5回(奇数月開催、実施予定)

訓練計画

- ・火災を想定した避難訓練（通報訓練・消火訓練）
- ・地震、夜間想定避難訓練（消火訓練）
- ・防災センター 体験・訓練
- ・水害対策の避難訓練

その他

緊急連絡網更新実施 ヘルメット・懐中電灯点検実施

毎月 防火設備点検

備蓄庫点検実施

毎月1回 定例会議実施

衛生対策委員会（第二森の里）

構成員

西迫初美、千葉京子、鈴木裕、塩川匠、芦田美幸、丹羽涼、古屋明子、川越直美
大瀧亜希奈、横山恵美、白澤亮、増井ももこ、森川了佳
※必要に応じ嘱託医、協力医療機関に委員会参加を依頼する

目 的

施設内における感染症の予防及び蔓延防止を徹底し、ご利用者の生命と健康を守るとともに、安全で清潔な療養環境を維持する。

重点目標

- ・ 感染症発生ゼロを目指す体制強化
- ・ 標準予防策の徹底
- ・ 職員研修参加率 100%
- ・ BCP（感染症編）の実効性向上

年度計画

- ・ 委員会の開催
年4回以上開催（開催月 6月、9月、12月、3月）※感染症発生時は随時開催
- ・ 感染症対策指針の見直し
年1回以上見直し
- ・ 新興感染症への対応確認
- ・ ゾーニング体制の再確認
- ・ 職員研修・訓練の実施
全職員対象研修 年2回以上
- ・ 実地訓練 年1回以上
感染症発生時対応訓練
報告フロー確認
- ・ BCP（感染症編）の運用確認
年1回シミュレーション実施
課題抽出と改善

評価方法

- ・ 感染症発生件数の推移分析
- ・ 研修実施状況及び参加率確認

褥瘡対策委員会（第二森の里）

構成員

委員長/褥瘡予防担当者：芦田美幸 西迫初美、千葉京子、鈴木裕、塩川匠、山田美和子
丹羽涼、古屋明子、川越直美、大瀧亜希奈、横山恵美、白澤亮、増井ももこ、森川了佳
※必要に応じ嘱託医、協力医療機関と連携

目 的

利用者の皮膚状態を適切に管理し、褥瘡の予防および早期発見・早期治療を徹底することで、利用者の苦痛軽減および生活の質（QOL）の向上を図る。

重点目標

- ・新規褥瘡発生率の低減
- ・ハイリスク利用者の早期抽出と個別計画徹底
- ・体位変換・スキンケアの標準化
- ・栄養管理との連携強化

年度計画

- ・委員会の開催
年4回以上開催（開催月 6月、9月、12月、3月） ※必要に応じ臨時開催
- ・褥瘡発生状況の把握
月次で発生状況を集計、発生原因分析および再発防止策の検討
- ・ハイリスク者管理
入所時および状態変化時にアセスメント実施、リスク評価票の活用
- ・ケアの標準化
体位変換方法の統一、エアマット使用基準の明確化、スキンケア手順の確認、個別予防計画の策定
- ・栄養、機能訓練との連携
低栄養リスク者の把握、水分摂取量管理、離床支援の強化
- ・職員研修
年1回以上実施（褥瘡発生メカニズム、観察ポイント、予防的ケア実技）

評価方法

- ・新規褥瘡発生件数の推移
- ・重症化事例の有無
- ・ハイリスク者管理状況確認

生産性向上推進委員会（第二森の里）

構成員

西迫初美、千葉京子、鈴木裕、塩川匠、芦田美幸、丹羽涼、古屋明子、川越直美
大瀧亜希奈、横山恵美、白澤亮、増井ももこ、森川了佳

※必要に応じ嘱託医、協力医療機関と連携

目 的

介護現場における生産性向上の推進を目的とし、ICT の活用、業務改善およびチームケアの最適化を図ることで、職員の業務負担軽減とサービスの質向上の両立を目指す。

あわせて、働きやすい職場環境の整備と人材定着率の向上を図る。

法人運営方針（DX 推進・業務効率化・人材確保対策）に基づく戦略的委員会とする。

重点目標

- ・記録業務時間の削減
- ・会議時間の効率化
- ・ICT 活用率向上
- ・離職率低減
- ・業務改善提案件数の増加

年度計画

- ・委員会を年4回以上開催（4月、7月、10月、1月）
- ・業務の見える化
業務量調査の実施、タイムスタディ実施、無駄業務の抽出
- ・ICT 活用推進
介護記録システム活用促進、ペーパーレス化推進、情報共有のデジタル化
- ・会議・報告体制の見直し
会議時間短縮、報告書様式の整備・統一、情報共有ルール整備
- ・他委員会との連携
虐待防止検討・事故防止検討・衛生対策委員会と連携し、業務過重によるリスク軽減を図る

評価方法

- ・記録業務時間の比較
- ・残業時間推移
- ・離職率推移

研修委員会

(森の里、第二森の里、居宅森の里、小鮎・緑ヶ丘地域包括支援センター)

構成員

(森の里) 岩崎佑里、佐藤健一、古川沙織、篠崎あゆみ
 (第二森の里) 佐々木理恵、足達友里花、荒川早紀、山下彩香、鈴木裕
 (居宅森の里) 圓福るり子

1、年度目標

- ① 「専門性」および「職業倫理」の向上を図り、専門職としての資質向上を推進する。
- ② 業務に必要な知識・技術を体系的に習得できるよう、研修計画体制を整備し、研修目的を明確化する。
- ③ 「現場で活かせる」研修を実施し、実践力の向上を図る。
- ④ オンライン研修の活用を推進し、研修機会の拡充および浸透を図る。(Band を活用)
- ⑤ 外部研修への積極的参加を促進する。
- ⑥ 各事業所の研修情報を共有し、法人全体として知識の底上げを図る。

2、概要

- ① 年間研修計画の策定
- ② 毎月1回、合同または施設ごとに委員会を開催する。
- ③ 研修時間は内容に応じて設定し、勤務時間内または時間外に実施する。
- ④ 施設合同研修については合同会議を開催する。動画研修は原則として合同研修とする。各施設単独研修についても情報共有を行い、参加を促進する。
- ⑤ 研修不参加者には資料閲覧を実施し、内容に応じてレポート提出を求める。
- ⑥ オンライン研修の実施回数を増やし、全職員への浸透を図る。
- ⑦ 外部研修への参加を計画的に実施する。

3、年間計画 ※研修は変動・変更あり

	合同研修	森の里	第二森の里
4月		新任職員研修	新任職員研修
5月	事故防止研修		
6月	衛生管理研修(食中毒)	医務研修・BCP計画(感染・訓練演習)	BCP研修(防災・訓練演習)
7月	ハラスメント研修	褥瘡予防研修	褥瘡予防研修
8月	虐待・拘束廃止研修		
9月		*食事介助(月は暫定)	看取りケア研修
10月		口腔ケア研修	口腔ケア研修

1 1 月	事故防止研修	認知症	認知症
1 2 月	衛生管理研修(感染症)	BCP 計画(感染・訓練演習)	BCP 計画(感染・訓練演習)
1 月		介護技術(外部講師)	介護技術研修
2 月	虐待・拘束廃止研修	入浴に関する研修	褥瘡予防研修
3 月	次年度委員への引継ぎ	次年度委員への引継ぎ	次年度委員への引継ぎ

4、研修計画

- ・ 新任研修、医務研修、介護技術研修、外部研修、研修発表は随時実施する。
- ・ 外部講師を依頼する場合は、研修実施日の2ヶ月前から日程調整を行う。
- ・ オンライン研修が可能な場合は、Band を用いて受講機会の拡充を図る。
- ・ 外部研修参加者は、レポートを提出し、内容の法人内で共有する。
- ・ オンライン研修については、視聴後に振り返りを実施し、個人学習にとどまらず、法人全体として研修の目的と意図を再確認する機会とする。